

FAURE & SCHUMANN

～WINDS CAFE vol.341～

2025年5月11日(日) 14:00

芸術家の家スタジオ

ガブリエル・フォーレ(1845-1924)

- ・ ロマンس/Romance Op.28 vn/pf
- ・ 3つの無言歌 より第1曲、第3曲/Romance sans paroles Op.17 pf solo
- ・ ピアノ四重奏曲第1番/Piano Quartet No.1 Op.15
 - I .Allegro molto moderato/ II .Scherzo.Allegro vivace
 - III.Adagio/IV.Allego molto

ローベルト・シューマン(1810-1856)

- ・ 歌曲集「詩人の恋」より/Dichterliebe Op.48 vla/pf
 - 第1曲／美しい五月に
 - 第2曲／僕のあふれる涙から
 - 第3曲／薔薇よ、百合よ、鳩よ
 - 第4曲／君の瞳に見入るとき
 - 第5曲／私の心を百合の杯に浸そう
 - 第7曲／私は恨むまい
- ・ タベの歌/Abendlied vc/pf
- ・ ピアノ四重奏曲/Piano Quartet Op.47
 - I .Sostenuto assai-Allegro ma non troppo II .Scherzo Molto vivace
 - III.Andante cantabile IV.Finale Vivace.

ガブリエル・フォーレ

ロマンス Op.28

フォーレは、2つの重要なヴァイオリンソナタに加え、ヴァイオリンとピアノのためのいくつかの小品を書いている。ピレネー山脈の温泉地、コートレを3週間ほど訪れた際、退屈しのぎに「ロマンス」を書き始めたらしい。

繊細で美しいテーマは、やがて嵐のような中間部へ。カデンツァを経て冒頭の穏やかなテーマが回帰される。1877年にヴァイオリニストのアルマ・ハークネスのために作曲され、1883年に初演された。

3つの無言歌 Op.17 より第1曲、第3曲

1863～64年頃に作曲された初期のピアノ曲で、フォーレのピアノ独奏曲の中で最初に出版された。最も美しく親しみやすい作品の一つ。メンデルスゾーンの「無言歌」へのオマージュで、シューマンの和声から借用した、流れるような伴奏を伴う叙情的なメロディラインも印象的である。静謐さと感傷、優雅さを併せ持つ作品。

ピアノ四重奏曲第1番 Op.15

1876年にヴァイオリンソナタ第1番を書き上げたフォーレは、新たな室内楽作品に着手する。1877年にヴァイオリンソナタの初演やマドレーヌ寺院の楽長への就任、また歌手ポーリーヌ・ヴィアルドの娘マリアンヌとの婚約が破棄されるなど、生活は多忙を極め、作品の完成までに3年ほどかかった。作品は、ヴァイオリンソナタ第1番の作曲に協力したヴァイオリニストのユベール・レオナルに献呈された。1880年に初演を迎えるが、4楽章のみを書き直し1883年に晴れて完成となった。のびやかな楽想と魅力的なテーマ、ピアノの華やかなヴィルトゥオーゾ性を併せ持ち、フォーレの初期作品ならではの魅力が溢れた作品。

ローベルト・シューマン

歌曲集「詩人の恋」Op.48 より

ハイネの詩集「歌の本」からシューマンが詩を選び作曲した、全 16 曲からなる連作歌曲。シューマンはライプツィヒ近郊のツヴィッカウで生まれた。父は書籍商で、たくさんの本に囲まれた環境で育つ。7 歳からピアノを、やがて作曲も行うようになり音楽への才能を現す一方、詩や文学にも傾倒していく。大学入学を前に友人とドイツを旅行した際、ミュンヘンでハイネと出会った。(シューマン 18 歳、ハイネ 31 歳)

時を経て、恩師ウィークの娘クララを結婚した 1840 年、シューマンは 120 もの歌曲を書いた。ハイネの詩はシューマンの想いを代弁するものであり、「詩人の恋」は彼を代表する作品であるとともに、数あるドイツリートの中でも珠玉の名作と言われている。

タベの歌 Op.85-12

ピアノ連弾曲集「小さな子どもと大きな子どものための 12 のピアノ曲集」の終曲。シューマン 39 歳の頃の作品で、幼き長女と一緒に演奏するためにこの曲集を書いた。美しい和声の移ろいがあり、日暮れの穏やかな光景が目に浮かぶ。

ピアノ四重奏曲 Op.47

シューマンは、20 代まではピアノ曲を中心に作曲を行ったが、1840 年は歌曲、1841 年は交響曲の分野に力を入れていく。翌 1842 年は「室内楽の年」と呼ばれ、3 曲の弦楽四重奏曲やピアノ五重奏曲、そしてこのピアノ四重奏曲と、数々の名作を生み出した。ピアノ四重奏曲はスケッチの段階から含めても、わずか 1 ヶ月ほどで完成している。第 3 楽章は特に人気があり、情緒あふれる美しいメロディが各楽器に受け継がれていく。

野村祥子 Sachiko Nomura/ヴァイオリン

桐朋学園大学、同大学院修士課程を修了。2010～2014年、兵庫芸術文化センター管弦楽団に在籍。2013年、フランスの fugato 国際音楽祭ヴァイオリンコンクールにて二位及び聴衆賞を受賞。これまでにヴァイオリンと室内楽を、藤原浜雄、三輪郁、堤剛、Albert Lotto の各氏に師事。現在後進の指導にあたりと共に、Albert Lotto 氏とのデュオリサイタルをはじめ積極的に演奏活動を行っている。

山縣郁音 Ikune Yamagata/ヴィオラ

桐朋女子高等学校音楽科、同大学卒業。同研究科修了後、Talent Music Master にてディプロマ取得。恵藤久美子氏、堀正文氏、漆原啓子氏、マークゴトーニ氏に師事。ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクール第3位等受賞。サントリーホール室内楽アカデミー修了。桐朋学園大学附属子供のための音楽教室非常勤講師。

竹本聖子 Seiko Takemoto/チェロ

古今東西の音楽に携わり、様々なジャンルでオールラウンドな活動を行うアーティスト。江戸文化と現代音楽の融合を通し新たな扉を開くグループ「淡座」、オーケストラ・トリプティーク、ルリトラノオ弦楽四重奏団、プラットフォーム等でメンバーとして活動する。東京音楽大学卒業、同大学院修了。チェロを秋津智承、森純子、堀了介、ドミトリー・フェイギンの各氏に師事。

百武恵子 Keiko Hyakutake/ピアノ

東京音楽大学、大学院を経て、パリ国立高等音楽院にて伴奏科、室内楽科を一等賞を得て修了。2007年文化庁海外派遣芸術家海外研修員。フランス国際コンクール室内楽部門第一位。在学中よりロンティボー国際コンクール、カザルス音楽祭などに公式伴奏者として参加。弦楽器クラス伴奏者を度々兼任し、パリ国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団などのメンバーと共演。09年に帰国。10年文化庁国際交流基金の支援のもとアルジェリアにてリサイタルを行う。ピアノを三浦捷子、川上昌裕、伴奏法と室内楽を J.ケルネル、山洞智、C.イバルディの各氏に師事。草津アカデミー、京都フランスアカデミーにて、A.シピリ、パスカル・ロジェ氏のクラス受講。東京音楽大学非常勤講師(伴奏、室内楽)